

## 研究主題「学びを実感し、コミュニケーション活動への意欲を高める指導の工夫 —小学校外国語活動における評価記録シートの開発と活用を通して—」

東京都教職員研修センター企画部企画課  
杉並区立天沼小学校 主幹教諭 新井 晶子

### 第1 研究のねらい

小学校における外国語活動は、小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とし、平成23年度から全面实施している。このような中で、日本英語検定協会が平成23年度に行った「小学校の外国語活動に関する現状調査」によると、文部科学省が作成・配布した「英語ノート」の活用率は9割を超え、共通教材として定着した状況となっている。また、評価については、小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成20年8月）において「教科のような数値による評価はなじまないもの」とされ、「文章の記述による評価を行う」とされている。しかし、東京都教育委員会による「小学校外国語活動に関する調査」（平成23年7月）の結果から小学校外国語活動の実施における課題として、評価の実際、評価計画の作成、評価内容の通知表への記載の在り方を挙げる学校が多いことが明らかになった。このことから「英語ノート」等の共通教材の基盤の上に立ち、目標に準拠した観点に沿った評価を適切に行うことが早急な課題と考えた。

そこで、本研究では、外国語活動の評価の在り方を探り、指導と評価が一体となった授業改善の確立を目指した。そのために、教師による行動観察や児童の自己評価を促す評価記録シートを開発するとともに、これらを活用した具体的な授業改善の方策を示すことにより、児童が学びを実感し、活動への意欲が高まるよう指導の工夫を行った。

### 第2 研究仮説

児童に活動の見通しをもたせるとともに、学びを振り返る児童用評価記録シート及び教師が児童の学びを確実に見取る教師用評価記録シートの活用を通して授業改善を図ることにより、児童が自らの学びを実感する経験が積み重ねられ、コミュニケーション活動への意欲を高めることができるだろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

研究開発校での研究成果や都内小学校における取組の整理・分析から、外国語活動の授業では児童に活動のめあてを意識させることが十分ではなく、ゲームやアクティビティを中心に授業が展開されている例が多いことが分かった。また、「小学校の外国語活動に関する現状調査」（日本英語検定協会・平成23年度）をさらに分析すると、外国語活動を実施する上での主な課題として、指導内容・方法、評価内容・方法などが高い割合を占めていた。このことから、授業の中で評価の観点に基づいた活動のめあての明確化と振り返りの実施及び教師による評価を確実に行う指導過程の確立が必要であると考えた。

#### 2 調査研究

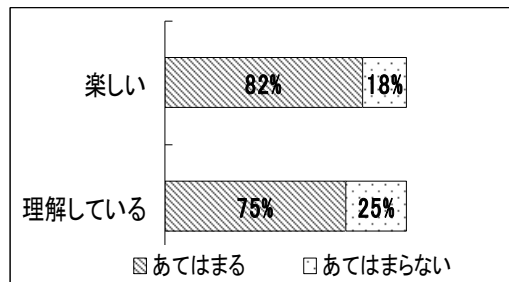
児童（都内公立小学校第5・6学年400名）及び教員（都内公立小学校外国語活動指導経験

のある教員 48 名)を対象に、「外国語活動に関する意識と実態」(平成 24 年 7 月)を調査した。

### (1) 児童の調査より

実態調査の結果から外国語活動の授業を楽しんでいると感じている児童は 80%を超えている。また、授業を理解していると回答した児童は 70%を超えているが、あまり理解していないと答えた児童は 25%おり、4 人に 1 人の割合である(図 1)。さらに、児童がどのような状況を踏まえて理解していると考えたのか聞き取りを行ったところ、授業で実施したゲームやアクティビティに楽しく参加したことで理解したと感じているという実態も明らかになった。

図 1 外国語活動に対する児童の意識

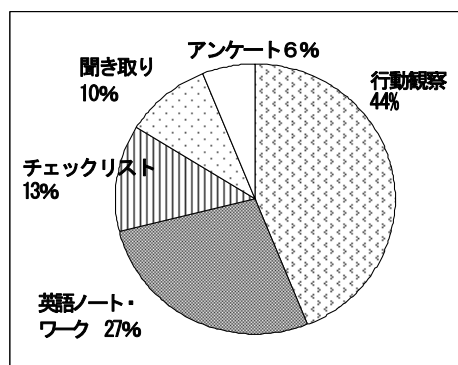


### (2) 教員の調査より

実態調査の結果から外国語活動における評価方法は

「児童の行動観察」が 44%を占めており、多くの教員が授業中の児童の活動の様子を捉えて評価を行っている(図 2)。その理由について聞き取りを行ったところ、「適切な評価方法が分からないから行動観察に頼っている」「明確な観点に基づいた評価は実施できていない」という実態も明らかになった。

図 2 外国語活動における評価方法



## 3 開発研究

### (1) 活動意欲を高める授業サイクルによる授業改善

児童が学びを実感できるよう、本研究では指導過程を明確にし授業サイクルとして示した(図 3)。授業サイクルに即した授業を進めるために、児童用と教師用の評価記録シートを開発し、活用を図った。児童用評価記録シートは、活動のめあてを明確に提示し児童に学びの見通しをもたせ、終末に振り返りを行うことにより、自らの達成度を確認することに活用する(表 1)。また、教師用評価記録シートは、児童の行動観察を通した教師の評価と児童の達成度を一覧として整理し、授業改善の手だてを具体的に立てられるよう作成した(表 2)。

図 3 活動意欲を高める授業サイクルを活用した指導過程

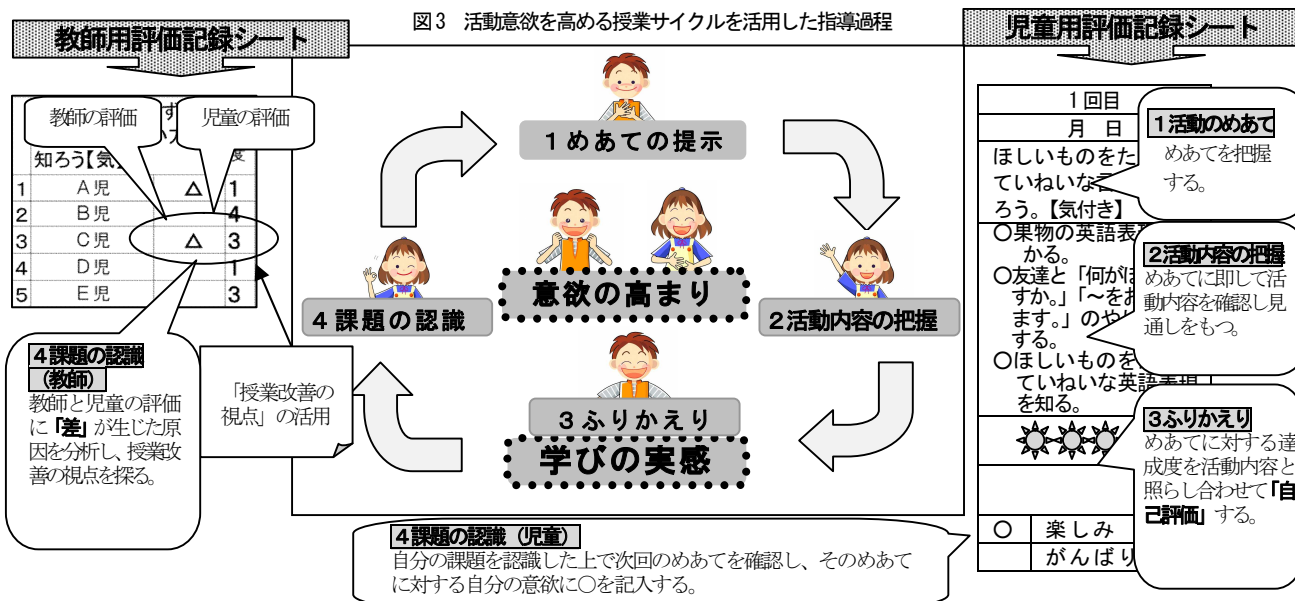


表1 児童用評価記録シート（一部抜粋）

回	1回目	2回目
日付	月 日	月 日
授業のめあて	ほしいものをたずねるていねいな言い方を知ろう。【気付き】	ていねいな言い方でほしいものをたずねてみよう。【慣れ親しみ】
主な活動内容	○果物の英語表現が分かる。 ○友達と「何がほしいですか。」「～をお願いします。」のやりとりをする。 ○ほしいものをたずねるていねいな英語表現を知る。	○食べ物英語表現が分かる。 ○ほしいものをたずねるていねいな言い方と答え方が分かる。 ○友達とほしいものをたずねるていねいな言い方でやりとりをする。
達成度	☀☀☀☀☀☀	☀☀☀☀☀☀
活動を通して		
次回に向けて	楽しみ がんばりたい	楽しみ がんばりたい

授業サイクルに基づいて児童用評価記録シートと教師用評価記録シートを組み合わせて活用することにより、児童が学びをよりよく実感するとともに教師は、

児童の課題や成長を客観的に評価でき実態に即した授業改善の方策を立てることができる。

## (2) 中学校への活動内容のつながり

平成24年度からの共通教材「Hi, friends!」の活動内容を観点に即して系統的に整理し一覧にして示した。単元間の学習内容の関連や中学校へのつながりを示すことにより、系統性を踏まえた指導を行いやすくした（図4）。

図4 中学校への活動内容のつながり（一部抜粋）



## 4 検証授業

基礎研究、調査研究、開発研究を踏まえ、都内公立小学校で第5学年及び第6学年においてそれぞれ1レッスン各10時間の検証授業を行った。

### (1) 評価記録シートの活用

#### ア 児童用評価記録シートの活用

第5学年の授業では“What do you want?”とい欲しいものを尋ねる既習事項を復習の上、“What would you like?”という丁寧に欲しいものを尋ねるとい本時のめあての提示を行った。評価記録シートを基に活動内容を一つ一つ確認し、めあてと活動内容とのつながりを意識させ、見通しをもたせた。終末ではめあてや活動内容に対応させて学びの振り返りを行い、活動を通してできるようになったこと、まだできていないことを自己認識させた（図5）。

図5 児童用評価記録シートの活用による児童の変容（A児）

回	1回目	2回目	3回目	4回目
授業のめあて	ほしいものをたずねるていねいな言い方を知ろう。【気】	ていねいな言い方でほしいものをたずねてみよう。【慣】	ていねいな言い方でやりとりしよう。【慣】世界の料理を知ろう。【気】	自分のスペシャルランチを友達に紹介しよう。【コ】
主な活動内容	●果物の英語表現が分かる。	●食べ物英語表現が分かる。 ●友達とほしいものをたずねるていねいな言い方でやりとりをする。	●グループでやりとりをしてランチメニューを作る。 ●外国の給食が分かる。	●友達と店員と客とに分かれてやりとりをしてスペシャルランチを作る。 ●つくったランチを友達に紹介する。
達成度	☀☀☀☀☀☀	☀☀☀☀☀☀	☀☀☀☀☀☀	☀☀☀☀☀☀
児童の記述	ほしいものをたずねるいろいろな言い方があったことを知った。果物の英語を思い出した。	食べ物の表現を覚えた。ていねいな言い方が分かった。	サラダなどの英語表現が分かった。ほかの国の給食が日本と違うことが分かった。	最初はよく分からなかったけれどあとからだんだん分かった。友達とお店でやりとりができた。

既習事項と結び付けた活動の深まり

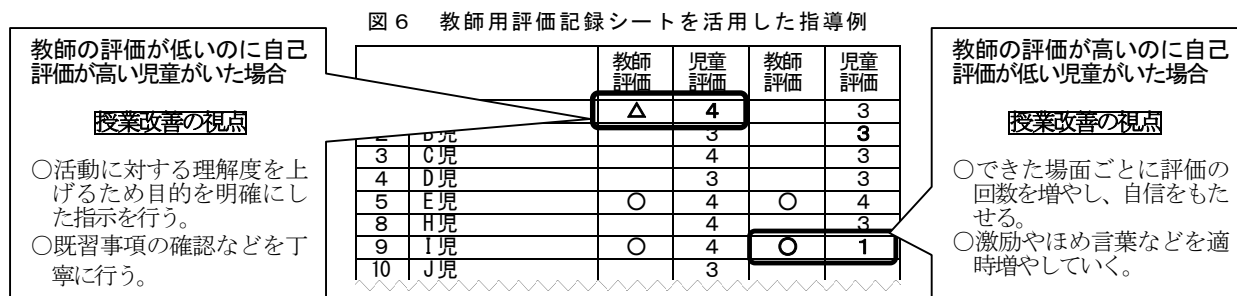
活動内容に即した理解の深まり

活動内容に即した理解の深まり

コミュニケーションへの興味・関心の高まり

## イ 教師用評価記録シートの活用

教師用評価記録シートには、めあてに即した教師の評価を記入した上で児童の達成度を並べて記入した。個別に比較することにより、教師と児童の評価の「差」(児童の達成度が高いのに教師の評価が低い場合や教師の評価が高いのに児童の達成度が低い場合など)が見えてくる。その原因を分析し、授業改善の視点を活用し次回の児童への指導に生かすとともに全体の傾向の分析を通して、授業全体の改善に生かした。(図6)。



## (2) 外国語活動に対する児童の意識の変容

事前の調査では、外国語活動で学びを実感する場面として外国語活動の目標である「コミュニケーションへの積極的な態度」や「外国の言語や文化に対する理解」、「外国語への慣れ親しみ」の項目に肯定的に回答する率が低かったが、事後の調査では肯定的な回答率が高まり、

学びが深まっている様子がうかがえる(図7)。また、活動そのものの楽しさよりも実際に外国語を活用してコミュニケーションを行った達成感や外国の文化や言語を知ることができたという満足感から楽しいと感じている児童が増え、学びの質の高まりが読み取れた(表3)。さらに授業を理解していると答えた児童は90%を超えた(図8)。

表3 児童の学びの質の変容

	B児	C児	D児
事前	ダンスがあるから楽しい。	ゲームのようなもので英語を覚えるから楽しい。	外国語のしゃべり方がおもしろいから楽しい。
事後	クラスの人と交流する時間が増えるから楽しい。	英語が分かって新しい言葉を覚えた時、「使えるようになった」と感じ授業ができるから楽しい。	外国と日本の食べ物の違いなどが分かって楽しい。

図7 外国語活動の授業が分かる学びの実感とを感じる3観点に基づく意識の変容

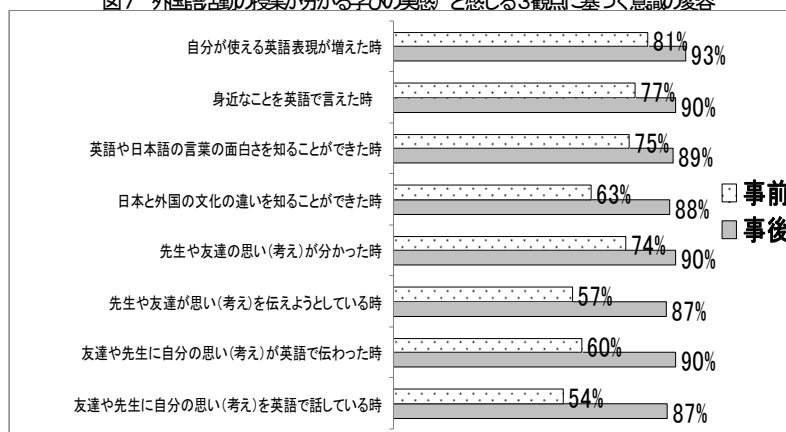
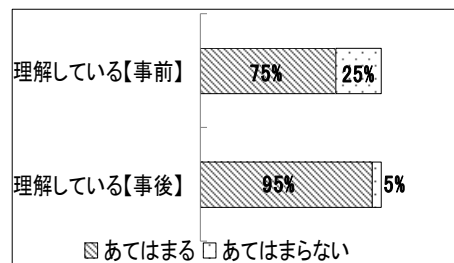


図8 児童の意識の変容



## 第4 研究の成果

- ・ 指導過程を明確にした授業サイクルに即した授業の実施により、児童の学びの質が高まり、コミュニケーション活動への意欲の向上を図ることができた。
- ・ 評価記録シートの活用により、指導と評価の一体化が図られ児童の理解を深められた。

## 第5 今後の課題

- ・ 第5・6学年全単元における授業サイクルを軸とした指導計画を作成・提示する。